

保護者の皆様

開成町立開成小学校長

スクールカウンセリングについて（ご案内）

残暑の候、皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、開成小学校ではお子さんのことについて、保護者の皆様と必要に応じて教育相談を実施しています。その中で専門の方に相談したい場合、文命中学校より開成小学校に派遣されているスクールカウンセラーを活用することができます。

つきましては、お子さんのことで、気がかりなことや心配なこと等がありましたら、教育相談として、ご活用くださるようご案内申し上げます。

➤ 利用の仕方

スクールカウンセラーとの面談を希望したい

希望

学校に電話・連絡帳等で連絡

- ・担任
- ・教頭
- ・教育相談コーディネーター

調整

学校から希望者に日程を連絡

スクールカウンセラーとの面談

※ 場所は小学校です。

スクールカウンセラーとの連絡・調整等の校内担当は「教育相談コーディネーター」の職員が行います。お気軽にお問い合わせください。



➤ 令和6年度の相談日

檀原 由江スクールカウンセラー（公認心理士）

9月 5日（木）・12日（木）・19日（木）・26日（木）

10月 3日（木）・8日（火）・17日（木）・24日（木）

11月 7日（木）・14日（木）・21日（木）・28日（木）

12月 5日（木）・12日（木）・19日（木）

1月 16日（木）・23日（木）

2月 6日（木）・13日（木）・20日（木）

3月 6日（木）・13日（木）

今年度、檀原由江（だんばら よしえ）SCが、毎週木曜日に来校しています。

「困っていることや気になっていること等がございましたら、遠慮なくご相談ください。」

相談を希望される方は、電話、または連絡帳を通して担任か教頭までご連絡ください。面談時間等を調整し、その結果を後日ご連絡いたします。

★1学期のお便りでは、10/10（木）でしたが、都合により10/8（火）に、変更しています。

・相談内容（教育相談、就学相談、行動観察）は、希望により柔軟に対応いたします。

原則として、受付順に相談日・時間を調整します。

・1回の教育相談時間は、45分間程度となります。（初回は、1時間程になることもあります。）

・2学期も、子どもが自ら相談できる「おはなしルーム」を開設します。

裏面もご覧ください

2学期が始まりました。

この夏、お子さんのどんな表情が保護者の方の「印象」に残っていますか？

今年は例年以上に暑い日が多く、子どもたちが思うように外で過ごせない分、ご家庭の中で保護者の方と一緒に過ごす時間も増えたのではないのでしょうか。また、パリオリンピックや夏の甲子園が開催され、多くの選手の活躍に、感動や喜び、時に悔しさ等をお子さんと共有したご家庭もあるかと思います。

この夏、「子どもの自己肯定感を高める～ソーシャルエモショナルラーニング～」というテーマで、渡辺弥生先生（法政大学文学部心理学科教授）のお話を聞く機会がありました。大阪出身、お笑い大好きな先生で、アメリカの大学でも学び、ユニークかつ経験にあふれる、心に残るお話をたくさんしてくださいました。

渡辺先生曰く、「今の子どもたちは、気持ちを表す言葉が貧困である。原因は、遊び、家庭の団欒のあり方、育児の3つの変化によるもの。これらの変化により、相手に注意を払わないコミュニケーションが多くなっている。若者がよく使う、『マジ・やばい』は、コミュニケーションを阻害する言葉である。家庭の中で、『マジ、やばい、うざい、疲れた』の言葉で済んでいないだろうか？」

そこで、我々教員も、2分間で感情語彙をいくつ書き出せるかとやってみました。2分間で30個超える人はいませんでした。10個以上が大半でした。（私も15個でした。）

渡辺先生は、「子どもたちのやる気を引き出すには、子どもが自己決定感を持つことが大切。相手が応答してくれるから自己肯定感が高まる。なかなか自己決定できない場合は、選択肢を示し、自己決定したと思わせることでよい。子どもは、いつも何かを伝えようとしているので、コミュニケーションを取ることが大切。一生懸命な保護者や教員ほど、『〇〇したのに、△△しないじゃない!』と、子どもが努力したところで、さらに期待をするので、本当の子ども声を聴いていない。」と。ドキッとしつつ、自分自身を振り返りました。

大人は、右の「ムードメーカー」の「黄ゾーン」であることを、子どもたちに求めてしまいがちだそうです。感情は、「情動感染」しやすく、記憶や健康等にも影響を与えるそうです。子どもたちの声に耳を傾け、「□□したいんだね。そうだね、●●しようか。」

や、「どうしたらよいか、一緒に考えよう。」と、気持ちに寄り添い、応答している姿勢を伝えることがよいそうです。

さて、近年、夏休み明けに、子どもたちの自殺や不登校が増える傾向にあります。夏休み明けの第1週目は頑張ったけれど、第2週目以降になるとその兆候がより現れやすくなります。学校が始まって、「頑張るぞ」と張り切る子どももいます。その分、安心できる家庭では、「ムードメーカー」の「緑ゾーン」の時間が必要になることもあります。ぜひ、そんな子どもたちの姿も認めてあげてほしいと思います。

そして、「マジ、やばい」ではない言葉で、ご家庭でも子どもたちに声かけをしていただき、子どもたちが「Very Good」ではなく、「Good Enough（そこそこイケてる自己肯定感）」を持てるような生活が送れるように、学校とご家庭でタッグを組んで、子どもたちを支援していければと思います。

長くなりましたが、この時期は普段以上に、お子さんの表情をよく見て、気持ちに寄り添っていただけると幸いです。些細なことととらえず、ご心配なこと等ありましたら、遠慮なくご相談ください。

エネルギー	くそ 嫉妬 イライラ	赤	頑張るぞー やったー 楽しい うれしい	黄
	がっかり うっ	青	のんびり まったり くつろぐ	緑
感情				